

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立和歌山北高等学校北校舎

校長名：川口 勝也

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）	すべての生徒が「和北」の生徒としてプライドを持てるよう、規律ある学校生活を送るとともに自主的な活動を意欲的に行うことができる学校を目指す。そのための柱は、個に応じた細やかな学習支援により自己実現できる確かな学力を身につけさせること、スポーツを中心としたクラブ活動の充実と強化を図ることである。そして、自ら向上心を持って活動し、他人を思いやり、互いを認め合う生徒の育成を目指す。	学校評価の公表方法	PTA 役員会、学校運営協議会、学校説明会等で説明するとともに、本校ホームページに掲載する。	現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
					B	概ね達成している。	(60%以上)
					C	あまり十分でない。	(40%以上)
					D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（3月15日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	自主的な学習姿勢と学習習慣を確立し、地域社会で活躍するために必要な「確かな学力」を育成する。	B	生徒の理解度に応じた学習支援を行い学びの質の向上に取り組む。	1人1台端末等のICTを効果的に活用し対面授業との組み合わせ実践率の増加	B	教員・生徒ともICTの活用に慣れ、ICT活用した授業が増加している。	授業改善を進めICTをさらに活用するとともに、家庭学習用アプリを導入し成績上位層の強化を図る。一方で、支援の必要な生徒には個別の課題や対応を行い、成績不振者の減少に努める。
			校内外の授業研究会に積極的に参加し、授業改善に努める。	生徒による授業評価の「わかりやすい授業」の指数増加	A	指数が40から46に増加した。ICTの積極的活用や授業形態の工夫等による成果と考えられる。	
			習熟度・少人数展開、生徒の状況に基づく合理的配慮等、個に応じた指導を行う。	成績不振者数の減少、生徒の出席状況の改善と共に、国公立大学合格者を輩出	B	学習支援が必要な生徒も多く、生徒の状況に応じた補習を行った。国公立大学合格者1名輩出。	
2	望ましい勤労観と職業観を育成し、生徒が主体的に進路実現に努めることができるよう進路指導の充実を図る。	B	個人面談やキャリアカウンセリングを充実する。	面談時間の増加、就職内定率・進学率の向上	A	4年生大学への進学者は増加した。就職の内定率は100%である。	大学進学においてほとんどの生徒が推薦入試等による受験を希望している。大学入学共通テストの受験とともに、一般入試に挑戦する生徒の増加、学力の向上を目指し、生徒の意識変革、学習環境の整備に取り組む。
			就職希望者全員に応募前職場体験を実施する。	1年以内の離職率の減少	A	就職希望者全員が応募前職場体験を行い、離職率は減少している。	
			生徒の希望・能力等を把握し、適切に支援する体制を整える。	進路別・分野別ガイダンス等の充実、進路指導現職教育の実施（年2回以上）	A	生徒への進路ガイダンスを6回実施し、現職教育は2回実施し、アンケートは3回実施した。	
3	多様性を理解し他者を思いやる豊かな心、他者との対話し協働できるコミュニケーション力という、幅広い社会性を身につけた責任ある主権者を育成する。	B	人権尊重の意識を高める活動を学校活動全体に充実させる。	学校評価の「人権教育」の指数増加	A	指数が昨年から増加した。教員の人権研修等の実施による成果と考えられる。	生徒会を中心に生徒の活動意欲は非常に高まっている。両校舎合同での学校行事もより活発な活動ができた。また、生徒会と各部活が連携し地域との交流を増加させる。
			生徒が自主的に地域で活動する場面を充実させる。	生徒会活動やボランティア活動への参加率向上	A	教員と生徒会が連携し、様々な地域への貢献活動を行った。	
			学校行事や特別活動、LHRなど学校活動全体を充実させる。	学校評価の「HR活動や学校行事の有意義度」の指数増加	B	昨年の指数が47で今年は52と増加した。今後も両校舎合同での学校行事や生徒会活動を充実していきたい。	
4	心身を鍛え目標達成に向けて挑戦し続ける生徒を育成するため、部活動の更なる充実と飛躍を目指す。	B	発育・発達の段階に応じた効果的・効率的な指導・運営を行う。	部活動加入率の増加及び学校評価の「積極的に部活動に参加している」指数増加	B	加入率は1%増加し、指数は54から59に増加した。	本年度の特色化選抜・スポーツは北校舎3競技7名となり、これから段階的に増やすことで、全国から優秀な人材を確保し、さらに競技力向上に努める。
			運動部活動の更なる競技力向上を図り、競技力に秀でた生徒を育成する。	全国大会出場者（インターハイ）を100名以上輩出（両校舎合計）及び全国大会入賞者数増加	B	全国大会出場は総体夏・冬合わせて84名で目標を達成することができなかった。また、国体に7競技19名が出場し5名が入賞した。	
			指導者としての専門的知識や技能、指導力の向上に取り組む。	部活動指導に関する研修等への参加率増加	B	校外での各種目別研修に多数参加するとともに、体罰・ハラスメント防止等の校外内研修にも参加した。	

学校関係者評価（2月27日実施）

学校運営協議会からの意見

- 1 確かな学力の育成について
両校舎ともICT機器の活用や習熟度別授業等、授業改善に努力しているが、さらに新しい取り組みを期待する。
- 2 進路指導の充実について
進学、就職ともによく頑張っている。北校舎では和歌山大学の合格もあり、例年以上の実績を残した。西校舎では応募前職場体験の全員実施等、丁寧に指導することで離職する者がほとんどいないというのは企業側からも信頼される取り組みである。
- 3 責任ある主権者の育成について
生徒会を中心に生徒の活動意欲は非常に高まっている。両校舎合同での学校行事（体育祭・マラソン大会等）もより活発な活動ができています。また、生徒会が中心となり、教員と様々な課題について積極的に話し合い、生徒総会が行われたことは評価できる。近隣の小学生へのスポーツ、茶道、吹奏楽等の体験イベントや、生徒会と図書部による読みかたりボランティア、また、文化祭でのお茶会では地域の婦人会等との交流できたことは、生徒の地域貢献の意識を高めている。
- 4 クラブ活動の充実と飛躍について
全国大会に多くの生徒が出場し、優秀な成績を収めており、「スポーツの北高」の名前に恥じない活躍である。今後は特色化選抜「スポーツ」を十分に活用して、全国から優秀な生徒をより多く獲得してほしい。そのためにも、競技実績はもちろん、北高の魅力を発信する広報活動や寄宿舎も含めた施設設備の充実が必要である。

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立和歌山北高等学校西校舎

校長名：川口 勝也

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

すべての生徒が「和北」の生徒としてプライドを持てるよう、規律ある学校生活を送るとともに自主的な活動を意欲的に行うことができる学校を目指す。そのための柱は、個に応じた細やかな学習支援により自己実現できる確かな学力を身につけさせること、スポーツを中心としたクラブ活動の充実と強化を図ることである。そして、自ら向上心を持って活動し、他人を思いやり、互いを認め合う生徒の育成を目指す。

学校評価の公表方法 PTA 役員会、学校運営協議会、学校説明会等で説明するとともに、本校ホームページに掲載する。	現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
		B	概ね達成している。	(60%以上)
		C	あまり十分でない。	(40%以上)
		D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（3月14日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	自主的な学習姿勢と学習習慣を確立し、地域社会で活躍するために必要な「確かな学力」を育成する。	B	全教職員が共通理解の上、基礎学力・学習規律の定着を図る。	授業中の教室巡視と授業課題の減少・課題監督	B	授業変更等の取り組みにより、授業課題は昨年度から 30%削減した。	普通科 1 年 2 クラスを 3 に増やし当初は落ち着いていたが、学習習慣が定着しない生徒が多い。中学校や保護者と連携した早期の取組で、生活習慣の改善や高校の単位制度への理解を促す必要がある。
			校内外の授業研究会に積極的に参加し、授業改善に努める。	生徒による授業評価の「わかる授業」の指数増加	A	生徒の評価による指数は、昨年度から 10%以上増加した。	
			習熟度・少人数展開、生徒の状況に基づく合理的配慮等、個に応じた指導を行う。	成績不振者数の減少、生徒の出席状況の改善	C	出席状況や授業態度が悪く、成績不振となる生徒が 1 年に多く見られる。	
2	望ましい勤労観と職業観を育成し、生徒が主体的に進路実現に努めることができるよう進路指導の充実を図る。	B	個人面談やキャリアカウンセリングを充実する。	面談時間の増加、就職内定率・進学率の向上	A	就職活動を早期に開始する生徒が多く、卒業までに全員進路決定した。	2 年でのインターンシップの影響か、3 年での進路決定が全体に早まっている。成績不振者の動きが遅いため、学習意欲を高め卒業への見通しを立たせる指導が必要である。
			就職希望者全員に応募前職場体験を実施する。	1 年以内の離職率の減少	A	就職希望者全員が応募前職場体験を行い、離職率は非常に低い。	
			生徒の希望・能力等を把握し、適切に支援する体制を整える。	就職指導員との連携、進路指導現職教育の実施（年 2 回以上）	B	学年別ガイダンス、インターンシップ等、全職員の協力で行った。	
3	多様性を理解し他者を思いやる豊かな心、他者対話し協働できるコミュニケーション力という、幅広い社会性を身につけた責任ある主権者を育成する。	B	人権尊重の意識を高める活動を学校活動全体に充実させる。	学校評価の「人権教育」の指数増加	A	生徒の評価による指数は、昨年度から 15%以上増加した。	生徒情報について教員間の共有システムをつくり、会議も適宜行われるようになったが、生徒対応が一部の教員に集中している状態である。通級指導は新しい指導者の育成が今後の課題である。
			生徒が自主的に地域で活動する場面を充実させる。	生徒会活動やボランティア活動の参加率向上	B	さくら支援学校との連携活動を充実させるよう努めた。	
			生徒が社会で活躍するための個別支援を充実させる。	S C ・ S S W との連携、通級指導の実施状況	B	ケース会議を適宜開催した。通級指導の広がりが課題となっている。	
4	心身を鍛え目標達成に向けて挑戦し続ける生徒を育成するため、学校部活動の更なる充実と飛躍を目指す。	B	知徳体のバランスを目指し、普通科全員に部活動参加させる。	部活動加入率の増加	C	普通科の運動部は例年並みだが、文化部は減少した。	特色化選抜の充実・北校舎寮の完成を期に全国からの生徒募集に注力する必要がある。スポーツ健康科学科の魅力を発信し優秀な人材を集め、個人はもちろん団体競技での全国出場を数多く目指す。
			スポーツ健康科学科生徒の更なる競技力向上を図る。	全国大会出場者を 100 名以上輩出（両校舎合計）及び全国大会入賞者数増加	B	全国総体 66 名、国体 28 名が出場し、内 8 種目で入賞。男女駅伝、女子サッカーが全国大会出場。	
			教員・生徒の運動生理学、栄養学等のスポーツ科学への理解を深める。	大学等の外部機関との連携事業のさらなる充実	A	スポーツ健康科学科では、大産大に加え、大体大や県内大学と連携し、授業内容の充実に努めた。	

学校関係者評価（2月27日実施）

学校運営協議会からの意見

1 確かな学力の育成について

普通科 1 年を 1 クラス増やして少人数編成を行ったことや課題の多い生徒たちに教員が丁寧に対応していることは評価できる。

2 進路指導の充実について

生徒の進路指導については例年よく頑張ってくれている。西校舎では 2 年全員が 3 日間インターンシップを行い、就職希望者全員が応募前職場体験を行う等、丁寧に指導している。離職率が低いことも企業から信頼される要因になっている。

3 責任ある主権者の育成について

西校舎と和歌山さくら支援学校は、コロナ収束以降、連携した活動を充実すべく工夫しており、今年度初めての試みとして合同で磯ノ浦ビーチクリーンを行ったり、本校の自立活動の授業に支援学校の生徒が参加したりした。今後は教員主導の活動だけではなく、生徒会を中心とした生徒主体の活動を期待している。

4 クラブ活動の充実と飛躍について

例年のとおり多くの生徒が全国大会に出場し、優秀な成績を収めているのはすばらしい。特に男女駅伝が 2 年連続、女子サッカーが初めて全国大会に出場したが、団体競技の活躍は大きなアピールにもなるのでさらなる躍進を期待している。北校舎寮の改修も完了することもあり、全国から優秀な人材を集める努力をしてほしい。部活動の成績だけではなく、学校・学科の魅力や進路実績をさらに充実させ、しっかりと広報してほしい。